

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Tomo de coco 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	2025/12/01	～	2025/12/13
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	2025/12/01	～	2025/12/13
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026/02/21		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	感覚統合指導、ムーブメント療育、ビジョントレーニング、ソーシャルスキルトレーニング、運動療育プログラムを日替わりで実施することにより、子どもの発達を総合的に促している。	自閉スペクトラム症を始めとする発達障害児に対する最新の療育法であるDIR/フロアタイムも取り入れ、自由時間の療育を充実させている。	感覚統合指導、ムーブメント療育などが、お子さんの発達をより促すことができるように、それぞれの療育法についてチームを組み、常に効果を検証しながら療育を進めていく。
2	年少児と年中児は指導員とマンツーマンの認知学習を行っている。年長児は就学を見据え、スクール形式の机の配置で認知学習を進めている。	子どもたちの興味関心を把握し、お気に入りのキャラクター等を認知学習に取り入れることで、楽しく意欲的に活動に取り組めるように工夫している。また、一人一人の能力・特性に合わせて学習内容を調整することにより、無理なく成長を促している。	マンツーマンやスクール形式による学習効果をスタッフ間で共有して、無理なく積み上げていく連携体制を構築する。
3	子どもたちが安心して目的的に活動できるよう、パーティションで学習環境を区切る物理的構造化、活動スケジュールを視覚的に示す視覚的構造化を取り入れている。	物理的・視覚的構造化に加えて、お子さんが落ち着く照度と香りなど、多重感覚環境療法の手法も取り入れて環境設定している。	トモデココで実施している構造化や多重感覚環境療法の手法を家庭と共有して般化することにより、多様な場面における情緒の安定を図っていききたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	第三者による外部評価や、専門機関からの定期的な助言については、現状では主に内部評価や保護者評価にとどまっている。	事業所運営に関して、既に外部のコンサルタントによる助言を継続的に得ているため、第三者による外部評価が実施できていない。	今後は外部の第三者による評価や助言を計画的に取り入れることについて研究し、客観的な視点を業務改善や支援の質向上につなげていく必要がある。
2	地域行事への参加や、地域住民・他事業所との交流については、実施機会が限定されており、「地域に開かれた事業運営」という観点では十分とは言えない状況が見られる。	関係機関との情報共有や連携自体は行っているものの、定期的な協議や共同した取組としては限定的であり、事業所の仕組みとして構築しているとは言い切れない。	地域の児童発達支援センターや保育所等との連携を強化するとともに、地域に開かれた事業運営を段階的に進めていきたい。
3	保護者同士の交流機会や、ペアレントメンターによる家族支援について取組を始めているが、継続性や参加人数の面で課題が残っている。	保護者との日常的な情報共有や個別相談は行っている。ペアレントメンターによる保護者研修と保護者同士の交流を計画的に行っている。しかし、参加者が少数に留まる要因については、家族状況と保護者様の価値観が多様であるため分析が難しい。	きょうだい児の支援に関する情報提供の方法を研究し、家庭での関わりを支える支援体制の充実を図りたい。